

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470600717
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの園
訪問調査日	平成20年3月14日
評価確定日	平成20年5月2日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1470600717
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの園
所在地	横浜市保土ヶ谷区東川島町14-2 (電話) 045-370-3337

評価機関名	(社) かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年5月2日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 9.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	枠組壁工法木造平屋 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(270,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(退所時、居室クリーニング代を差引き返金)	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	61 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川島診療所、牧野記念病院、エンドウ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは西谷駅南口の商店街を経て、徒歩で10分ほどの比較的閑静な住宅地の中にあり、建物の中心部に中庭を設けている。室内は落ち着いた色彩で統一され全体的に明るく、廊下は広く、開口部も多く、スペースにも余裕がある。法人は複数の関連施設を運営しており、事業所間で連携し、ケアに活かしている。近隣との交流は盛んで、町内会の祭りでは子ども御輿に立ち寄ってもらっている。また、地域の運動会への参加、近隣の小・中学校との相互訪問、ボランティアのコーラスグループの来訪などがある。このような様々な交流に加え、春・秋の旅行や夏祭りなど盛り沢山の行事を、利用者はそれぞれのペースで楽しんでいる。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で課題として挙げられた玄関周りについては、全職員に周知し、改善を図った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義については、ホーム長より職員に説明した。自己評価の作成は全職員で対応し、最終的にはホーム長が取りまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>本会議は平成19年8月に初会合を開き、その後は偶数月毎に開催し現在に至っている。会議では、ホームの職員人事を含めた現況について詳細に報告している。外部からの提言等は真摯に受け止め、ホームの活動に活かすようにしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の状態については、毎月定型文書で報告している。家族の来訪時にも逐次報告している。ヒヤリハットの発生や医療機関の受診の際には必ず電話で連絡している。要望や苦情などがあれば、職員全体で受け止め、運営に反映するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、法人経営者や複数の関係者が地元との関わりが強いこともあり、近隣との交流は盛んである。町内会の祭りでの子ども御輿の立ち寄りや地域の運動会への参加、近隣の小・中学校との相互訪問、ボランティアのコーラスグループの来訪等、様々な交流が利用者にとって楽しみの一つになっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念の他に、「不安の除去、傾聴の充実、考察力の向上」という施設独自の運営の理念を掲げている。また、介護目標として、「スタッフは生活援助の演出家である」ということを常に念頭に置きつつ、日々のケア活動に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、朝礼等でホーム長から折に触れ、事例を示して具体的に説明している。職員全体への浸透に努め、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、法人の複数の関係者が地元との関わりが強いこともあり、近隣との交流は盛んである。町内会の祭りでの子ども御輿の立ち寄りや運動会への参加、近隣の小・中学校との相互訪問、ボランティアのコーラスグループの来訪等、活発な交流が利用者にとって楽しみの一つになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義についてホーム長より職員に説明した。自己評価の作成は全職員で対応し、最終的にはホーム長が取りまとめた。前回の外部評価で課題として挙げられた玄関周りについては、全職員に周知し、改善を図った。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当会議は平成19年8月に初会合を開き、その後は偶数月毎に開催している。会議では、ホームの職員人事を含めた現況について詳細に報告しており、ホームの諸活動について出席の委員から好意的に受け止められている。外部からの提言などは真摯に受け止め、ホームの活動に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区主催の「介護予防の認知症教室」へ講師を派遣したり、グループホーム開設者研修会を委託事業の形で支援している。区の担当者とは更新申請などで行き来しており、連携を図るよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月毎に会計処理、利用者の状態、行事案内などを定型文書で報告している。家族の来訪時にも報告している。ヒヤリハットがあった場合や医療機関の受診など状態に変化がある時には必ず電話連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	過去には、利用者の時計を洗濯物と一緒に洗ってしまつたトラブルがあり、区の福祉調整委員と連携して解決したケースがあった。不満や苦情は、家族の訪問の折に細かい部分を含めて職員全体で十分に受け止め、適切に対応するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。担当制を採用している。異動がある時はベテラン職員と新規の職員が共に利用者のケアに当たり、異動に伴うダメージを少なくするように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、「個人情報、身体拘束、感染症」などのテーマの勉強会を月2回開催し、職員のスキルアップに努めている。新規採用者は、2週間程度、実務をこなしながら実地研修を行なっている。外部研修後には必ず全職員に報告して、情報の共有化と浸透化に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、神奈川県、横浜市のそれぞれの協議会に加入し、連携を図ると共に情報の収集に努めている。また、毎週、法人の3グループホームでケア全般について情報交換し、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居予定者には、気軽に来所してお茶などを飲んでもらい、入居者や職員と交流し、馴染みの関係を作り、入居しやすいようにしている。時には、家族と協力して「ホームの前にある診療所の治療を受ける」ということを入居予定者に言い含め、入居を納得してもらおうケースもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のこれまでの生活歴を職員は十分に承知し、個々に合った対応をするように努めている。正月行事について利用者から職員が教えを受けたり、職員と共に調理や片付けをしてもらっている。また、歌の好きな利用者には活躍できる場面を設定している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所の際にアセスメントを行ない、本人や家族の希望や意向の聴取につとめている。介護計画書にある「ご家族希望欄」を有効に活用し、来所時などに家族からの貴重な意見を追加記入し、ケアに活かしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、日々の個人記録、業務日誌やモニタリングを参考にして、ホーム長、計画作成担当者、常勤職員がまとめている。介護計画書には「ご家族希望欄」が設けられ、必要に応じて家族の意向を求め、実際のケアに反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行なっている。変化が著しいときはその都度現状に即した計画を作成している。見直しの時期、家族の希望が書かれた介護計画書を確認することができた。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人関係施設の利用のほか、行事や見学会等の催しは法人全体で行なうものもあり、利用者は様々な企画を楽しむことが出来る。また、個々の希望に合わせて買い物や美容院などに出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医はホームの前にある協力医療機関の「東川島診療所」となっているが、現在、利用者の一人は、これまでの医療機関へ継続して受診している。ホームは、情報提供等でかかりつけ医と連携している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」という書面で、重度化した際の医療機関との連携や施設の方針について家族に説明し、理解を得ている。また、職員も方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の勉強会で、「個人情報」、「接遇」等、利用者の誇りやプライバシーの重要性について、学ぶ機会を設けている。職員の利用者への声掛けやその態度について問題があれば、嫌な顔を見せず、言葉かけにも十分留意して平常心で対応するようにと、ホーム長自らその対応について職員を指導している。記録表簿の個人情報も事務室で適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の日課はあるが、利用者の意思を尊重して、臨機応変にスケジュールを変更している。散歩、食事の準備や片づけ、太極拳や体操などへの参加は利用者の希望を優先している。朝食は、利用者ごとに7時半から9時頃まで時間に幅を持たせている。個人的に小銭入れを持ち、買い物や喫茶を楽しんだり、テレビを持ち込み個々に楽しむケースもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何人かの利用者は職員と共に食事の準備や片付けをし、食事中も皆で会話を交わしながら食事を楽しんでいた。また、介助が必要な利用者には、職員が、個々のペースに合わせて支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を目標にし、利用者の健康を考慮して対応している。夏季は希望によりシャワー浴を楽しむケースもある。入浴嫌いの利用者には温泉の入浴剤を準備し、上手に誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の際に、アセスメントで利用者の過去の生活歴や趣味等を把握して、日々の諸活動に活かしている。理・美容についても半数の利用者は外部の理美容院を利用している。商店街が近く、そこで買い物や喫茶を楽しむ機会もある。また、月1回は外食や出前の機会を設け、利用者の好みのメニューを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	秋口までは散歩を日課としていた。春、秋の河口湖や箱根への一泊旅行、平塚での七夕見学、川崎大師への初詣、横須賀方面へのイチゴ狩りなど法人全体での外出の機会も多く、これが楽しみの一つになり、生活のアクセントにもなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前には生活道路があり、朝晩を中心に車両の行き交いが多いため、利用者の安全を考え施錠している。居室や各フロア（各ユニット）の出入り口は施錠していない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成19年8月に防災避難訓練を実施した。日勤・夜勤別の緊急対応や火災時等避難誘導マニュアルを準備し、災害時に備えている。平成20年度中には、警報装置やスプリンクラーの設置や消防署立会いの防災訓練を予定している。地域の人々とは協力医療機関の「東川島診療所」との関係を通じて協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取やカロリーバランスについては、専門の食材業者にそれらを考慮したメニューを依頼している。食事や水分量については記録を残し、健康管理に努めている。1日の摂取量は、カロリーは1000～2000キロカロリー、水分量は2000ミリリットルを目安にしている。また、過去には糖尿病食に対応したケースもあった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中心部に中庭があり、廊下も広く開口部も多いので、室内は全体的に明るく、スペースに余裕がある。また、壁面や天井は落ち着いた色彩で統一され、清潔感がある。食堂を兼ねた居間は、窓からの眺望も良く、居心地よく過ごせる空間となっている。浴室は広く、洗い場のスペースも十分である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者本人の状況や好みに合わせて、ペット、整理ダンス、机やイス、縫いぐるみ、家族の写真、位牌などが持ち込まれていた。それぞれの利用者が使い慣れた品物に囲まれて、居心地良く過ごせるよう工夫されていた。		

(様式1)

自己評価票(参考例)

いちょう 平成19年10月 1日作成

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念・方針は開所時より変更してなく、認知症ケアに関する方針も含まれている。	商店街の買物、喫茶、地域子供会の交流、小学校との交流授業を開所年より実施。中学校の社会勉強も受け入れている。 地元保育園との交流を計画し調整している。 幅広く社会資源を活用して社会性を維持させる事を目標としている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに掲示し、理解出来るようにしている。	理念を元に、法人全体で職員に勉強会を実施し、年度ごとにスキルアップした質の確保をしたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域との交流を入所前の説明で実施し、玄関には理念を掲示している。	入居前に地域交流の取り組みを説明し、独自性の活動の意味を理解して頂いている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方との挨拶は日常的に行っている、また介護保険制度についての相談にも対応している。	隣近所とは自然な形で入り、診療所受診等雑談もたえず行い、地元商店街でもとけこんでいる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の子供みこしが来所し交流を行い、また祭り、運動会参加、商店街に買物、喫茶を定期的に行っている。	運営推進会議でも自己評価の内容報告し、当事業所が地域との交流が出来ている事を説明している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に高齢者事業所と認知されており、今まで徘徊高齢者の保護、介護保険の相談調整の実績あり。		民生委員との協力体制をより強化し、認知症の介護に限らず高齢者支援に法人全体でサポートしている。
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の考え方の変化など評価しながら結果を申し送りで全スタッフに浸透出来るようにしている。		過去の外部評価の考え方から時代での流れに沿った形で、グループホームに求められる意義を朝礼などに話をして理解を求めている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員から御意見のあった際は、前向きに取り入れる方針としている。今まで改善点なし。		良くやっているという評価であり、今後もより多くのサービスに取り組みたいと思っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前年度までは区高齢者担当と処遇の相談、地域の認知症の介護予防教室のサポートを実施。		状況に合わせて担当区と連携は出来るようにはしています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今まで成年後見人制度の資料を御家族に配布。新規入居者に単身者がいるため、現況で司法書士と調整中。		介護保険の更新の代理申請も全入居者に行っているため、担当区にはいつでも家族からの相談があれば対応できるように受入れ体制はあります。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間法人全体で虐待の勉強会を開き、事例に基づき行っている。また管理者がスタッフに個々に指導の徹底を行っている。		何が虐待なのか基本的な考え方から職員自身がストレスにならない為の個々のサポートを心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>相談から入所時の家族の不安を傾聴し、具体的な援助をその場で提案、スタッフに周知し対応。退去時は管理者が予め家族の不安となる事をクリアして説明し安心感を提供している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>福祉調整委員会のあり方、契約時実際に受入れた内容を説明、家族より指摘や助言、要望はその都度運営に取り入れている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>左記記入の事項時に、家族の要望に合わせた個々の対応を可能にしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>契約書に外部苦情窓口連絡先を記載し、過去に福祉調整委員会を受け入れた事例あり。助言から検討し対応している。また法人職員勉強会でも報告をしている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>相談を受けた際に管理者は法人内で検討した内容から、受け入れ出来ない内容については、なぜ出来ないのか個々の職員の能力に合わせて説明し理解してもらっている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>出来るだけ要望は受け入れ、行事に対しては勤務調整している。他管理者の判断できない内容は法人本部に相談している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>適切な処置を第一として考えて対応している。</p>		<p>離職を極力少なくする努力を第一とする。</p>
5. 人材の育成と支援			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で育成し、月2回法人職員に対し行っている。段階に応じ、事業所外の研修を受講している。</p>		<p>法人内勉強会を基礎として知識と実務が合って、必要な施設外の研修受講する事が効果的と考えている。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人内3グループホームの常勤職員同士連絡を取り合い、意見交換している。</p>		<p>同法人内のグループホームのリーダーが連絡を取り合い、必要に応じて管理者と当事業所に業務か処遇変更が必要と考える際は改善し、質の向上に心掛けている。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスになる原因を管理者が個々のスタッフにアドバイスし対応している。</p>		<p>認知症のケアはストレスが強い為、スタッフに個々の入居者の対応の上手な工夫をアドバイスしている。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>常勤職員へのとよう制度を導入。管理者が個々に目標設定する。 非常勤、契約同様。</p>		<p>職員個々の能力に応じと常勤とよう制度、また本人の能力に合わせた法人内事業所の異動人事も行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御家族より相談・入所に至るまで現状のニーズを理解し御本人が適応できる環境作りを心掛けている。	相談は管理者が行い、ご本人が今何を援助する事で自立し何を求めているのか判断する事で、具体的に介護計画書に反映している。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御家族より相談・入所に至るまで充分今のニーズを理解し御本人が適応できる環境作りを心掛けている。	家族が不安、困難と思われる事を具体的に進め、先々のご本人のケアの展開を導き行う事と実施する事で信頼関係は確立している。
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	入所にあたっては、その御家族・御本人の要望に合わせた入所日を設定している。	ご本人、ご家族にとって何が必要か相談しながら行なっている。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入所前に必ず、見学に来所して頂き、他入居者も御本人も予め受け入れ、準備し生活しやすい環境作りを考察している。	ケースにより拒否がある可能性のある方は、前にある診療所で治療する為とはじめ説明し、自然になじめる様御家族と相談、了承得て対応している。今まで実際に行ってきた。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	介護での御本人の感情がどのようなものか、または本当は何の訴えなのか考察して行っている。	感情の一場面でご本人にとって、何を表現したいのかスタッフで理解出来ない時、管理者がサポートし今後の処遇に結びつける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族と共に介護にあたり、介護計画書にも御家族の支援の役割を反映している。		面会、家族外出が一番のケアである一方で、単身の入居者の心のケアも職員との関係も築き上げている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報交換を行い、御本人を御家族が良い関係を保てるように支援している。		在宅時に比べグループホーム入所より環境に適応する事で家族面会の頻度が高くなり、駅から徒歩圏という事でも来所しやすく出来ている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設から入所してきたご入居者は定期的に訪問か職員との交流を維持し対応している。また老人会関係者も同様に対応している。		入居者がなじめる様に、職員はユニホーム着用し、いつでも一緒にいる人と認知してもらう様に努力している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しない様に空間の配慮はしているが、出来ない場合は職員との人間関係の構築、また少しづつ入居者同士距離を縮めている。		人間関係の構築出来ない入居者には、原因究明し職員との構築からステップアップし、他入居者と関係性が維持出来るよう、意図的アプローチを行っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重度化により特養入所の方に対しても入院時面会に訪室し特養で言えない相談も受け対応している。		特養入所、長期入院の方に対しての家族不安軽減の為、定期的な訪問、連絡を行い不安の軽減に努め感謝されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活でジュース購入、ドライブ、散歩、空腹時アメなど本人本位で実施している。</p>	<p>ご家族の要望の多くは外出支援が多く、買物、ドライブ等対応し介護計画書に反映し、日誌にも記載している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前センター方式のアセスメント用紙を使用し、御家族に記入して頂く、また面接時に他内容を把握している。</p>	<p>アセスメント用紙については御家族に分かる範囲でと説明し全部記入しなくてはいけないと説明していない。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者の日常生活、心身状態等よく考察、個人記録、業務日誌に記入し把握できるように努めている。</p>	<p>心身の状態を朝礼の際、管理者が把握して一日の必要な動きを指示している。(診療所受診、精神的ケア、行事参加も含む)</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当介護員が記録シートに記入し、常勤職員、計画作成担当者、管理者にて介護計画書を作成する。</p>	<p>介護計画書には家族要望欄を設け意見要望を反映している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し時期に、モニタリングを行い随時、計画作成担当、管理者が作成、御家族に説明し同意をもらう。</p>	<p>見直し以前の急な追加事項については手書きで行い、モデル的にいくつか行い望ましい処遇を介護計画書に反映させている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に伴い、個人記録に反映し定期的に見直しを実施している。		介護計画書の実施の有無等を中心にして記録に反映し、他特記事項を記入。必要に応じてモニタリングに生かすようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	社会参加を大切にし地域性を活かした多機能性を活かしている。		社会資源、法人各事業所の機能を充分活用している。(特養、グループホーム、ケアプラザ、診療所、商店街、電車等)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域交流は積極的に行い、一つの独自性を持って行っている。		小学校との交流授業、小学校運動会見学、子供みこし来所、町内運動会応援、コーラスグループ月1回の訪問。 また運営推進会議に民生委員参加。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前、退所後に特養などサービスの支援の活用。		デイサービス、特養(本入所、短期)との調整、またグループホームから特養(ショートステイ)、本入所の支援。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センター職員(月2回)来所。		具体的に今まで事例がなく、予防給付の申請はしていない為、過去の事例ないも必要に応じて対応していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>協力医療機関の他に受診希望の場合は、調整可能。今まで家族が希望の精神科の主治医という対応経験あり。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関が精神科であり、病状の家族への説明、職員に対して適切な処置の指導あり。</p>	<p>精神薬服用について主治医より管理者に服用指示あった場合はは管理者より家族に書面にて周辺症状、状況、薬の服用のリスクの説明を行い同意書にサインして頂く。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>管理者は医療連携体制の中で、看護師と昼夜問わず行っている。</p>	<p>入居者が診断を受けた際、管理者(看護師)が家族に分かりやすく説明し家族の不安の除去に努めている。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した際は、週一回の病院の訪室し、管理者がソーシャルワーカーと密の連絡を取り対応している。</p>	<p>協力医療機関以外の病院でも管理者が連絡を取り、長期入院を出来るだけでなく努力をしている。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>主治医及び法人本部(特養)家族と管理者が充分検討し、家族が望む対応を行い職員にも伝えている。</p>	<p>病状悪化でターミナル期に退所する場合は、書面にて理由と受け入れ先を記載し対応している。重度化の指針の同意書のサイン。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>介護計画書に反映し、病状に合わせた細かいケアについては申送り簿にて対応している。必要に応じて点滴の指示の場合は、診療所で毎日点滴した事例あり。</p>	<p>病状に合わせた支援を法人全体で取り組み、急激なレベル低下に備えて特養入所申込を入所持より行っている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅より入所の際は家族の不安など傾聴し、管理者が具体的な援助方法を提供。他施設入所の際は書面にて申し送り、管理者が入所まで付き添い、本人家族をサポートしている。		家族に対して退所後も電話連絡し、不安等については連絡し対応。特養入所については、スタッフ同じユニホームにし混乱ないように対応している。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する勉強会、接遇に対する勉強会（法人全体）を行い参加者、資料確認し周知徹底している。		周知徹底しているが管理者がスタッフのケア場面でプライバシーの保護等で気になるときは個人指導している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	定期的に外食しメニューの選択をさせてあげたり、日常的に食べたい物、行いたい事を会話から引出している。		日用品、食事、外出等、会話行動から観察し、処遇上必要な際に実施して選択出来るように行っている。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思決定が出来る入居者にそった形で行っている。		買物、ドライブ、自販機のジュース購入等、介護計画書に反映している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御本人の希望があれば、商店街の理容・美容を利用し、またマニキュア等女性らしく対応している。		外出する機会を多くすることで、身だしなみ、おしゃれなど維持出来る様、ケアに一貫としている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>役割を提供し準備・片づけを行っている。また職員と食事をしながら会話することで情報の提供も行っている。</p>	<p>食材は業者で一任しているが、バランスが取れたメニューになっている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人購入にて補って定期的なイベントでお酒等提供している。</p>	<p>法人全体の外出レクの際、個人購入・選択など心がけ、入居者の性格によってグループ分けを行い、ニーズに合わせケアしている。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個人に合わせた排泄を行っている。</p>	<p>排便は本人に合わせた整腸剤使用。排尿は2時間毎に一回誘導することでリズムを取っている。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>夜間の入浴は行っていないが、夏場シャワー浴は実施している。</p>	<p>熱発、血圧高い時は曜日変更を管理者が指示している。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中昼寝の時間を設けたり、夜間パット等で無理に起こす事無く本人に合わせた安眠を考えている。</p>	<p>周辺症状が認められた入居者には、主治医と相談し身体に負担ならない様に漢方処方し、安眠を支援している。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活療法と位置づけして社会参加に努めている。</p>	<p>買物、喫茶、子供との交流授業、診療所の受診すべてが生活(社会参加)一考察としてとらえている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前に家族に紛失してもいい金額をもたせてほしいと依頼、また介護計画書にも反映している。		ご本人の能力に合わせてお金の所持を行っている。ジュース購入、買物の支援は制限していない。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が状況に合わせて時間を作り、本人の希望により外出している。		10月までは毎日買物に行き外出する事環境作りをしていた。現在では先の通り、時間を作り声掛けし外出している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事で一泊旅行、イチゴ狩り、七夕祭り等計画し実施している。		他市の外出レクリエーションを多くし、ご本人の社会適応能力、環境の変化に適応出来るかも考察のポイントとして行っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話(家族・友人)を自由にし、手紙も同様にしている。		電話(家族・友人)5名、手紙やり取り2名実施している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に対応している。		老人会で一緒だった方、民生委員、同じ施設入所の利用者の方、職員等、制限していなし。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画で身体拘束の勉強会を実施している。		身体拘束についての十分な理解を全体、個人の能力に合わせた指導をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関鍵は、玄関前の道路が交通量を多い為、入居者の安全を考え施錠を行っている。入居者の部屋には鍵が無いので鍵をかけないケアを行っている。</p>	<p>玄関の鍵は交通量の多さの為、鍵は必要と判断している。また職員には管理者より自宅の玄関の鍵は皆かける事がほとんどと考察している。一考察出来るといろいろな角度から考える事も指導している。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>御本人のプライバシーを配慮しながら、昼夜通しての様子を把握し安全に配慮している。</p>	<p>個々の能力に応じて自室の窓より鍵を開け中庭に出で歩行訓練、徘徊の事例ある為、随時職員が人員の把握に努めている。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>入居者一人一人の状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>認知症の進行に伴い、当初より居室にある物品の除去に努め、怪我、異食の防止に努めてきた。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ヒヤリハットの勉強会、救命講習の実施と事故を起こさない努力、起きたときの対応の準備をしている。</p>	<p>服薬管理は朝・昼・夕と手渡す時に名前を呼んだ事で2名確認で誤薬防止とする。緊急時の対応マニュアルを書面で掲示している。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>年2回救命講習を法人にて実施している。また月2回法人主催の勉強会を実施し、介護員のスキルアップを行っている。</p>	<p>けがの場合、管理者に報告受け初期対応の指示、夜間帯での事例としてバイタル測定時心肺停止状態、管理者、主治医に連絡し、蘇生しながら10分で診察対応した。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時マニュアルを作成している。</p>	<p>地域と協定は結んでいないが、今度町内会とは相談して行きたいと思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々に合わせたリスクは、必要に応じて対応している。		リスクが考察される時は、居室内も家族確認し、同意得た物を除去したり、精神薬服用についてもリスク説明し同意書にサインして頂いている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	昼夜問わず体調変化は認められた際は、管理者に報告し指示を仰ぐ。		管理者が状況報告を受けた際、適切な指示、また診療所に職員が入居者と受診し他科受診もありうる場合、また結果は管理者より家族に状況報告し記録をする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週一回の定期薬セットし、台帳を個人記録にファイル内服後の変化は朝礼等で報告している。		臨投薬は定期薬に追加服用の際は、セット前、服用時、服用後に確認。必要時、薬剤師の指示を受ける。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の排便は、排泄表で管理し申し送り時に報告を行う。予防として散歩や体操で運動をして頂く。また主治医からの指示により内服薬の服用も一部あり。入居者に合った方法で取り組んでいる。		個々に合わせた便秘傾向で、起床時牛乳、ラキソベロン、酸化マグネシウム、坐薬（管理者のみ挿入）で対応している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、就寝時、食後等声掛けを行い口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間回収し、洗浄薬にて対応している。		口腔内の管理以外に、義歯、虫歯は協力医療機関の歯科受診そ入居者の能力に応じて電車で帰るなど行事的に行っている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、表にて管理し、入居者に合った食事量、水分摂取量の提供に努めている。		水分量の摂取は、2000cc/日を目安に徹底している。メニューは業者配達であり、バランス的により形で提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルを作成している。また随時に、感染症の予防講習会に参加し、職員に申し送っている。		インフルエンザ、ノロウイルスについての勉強会は施設内外に参加している。肝炎については、入居前の診断書で抗体かを確認。疥癬、MRSAについてはマニュアル作成。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の衛生管理の内容を台所に貼り出している。また年1回の食品衛生講習会を法人で実施している。		年一回の市主催の衛生講習会に参加。まな板、包丁は毎日熱湯消毒している。害虫駆除は月一回業者確認している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	過去の外部評価で指摘事項であり、その後玄関前に花を置くなどしている。また中庭の花壇に咲く花の立ち入れをしている。		玄関は大きく強盗防止の為重点警戒中の張り紙しアピールしている。夜間の玄関前での電灯は今まで暗かったが、今は少し明るくなり地域の方に喜ばれている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて玄関に花、リビングにクリスマス、雛飾りなど、入居者と一緒に飾り付け手入れをしている。		トイレは3分に一回芳香剤が噴霧し消臭するなど気をつけている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになるスペースは居室で対応している。ソファで入居者同志集まって談笑するスペースを作っている。		居室、リビング、ソファと限られたスペースで職員が状況に合わせて対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好きなものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御本人が愛用されていた家具、寝具等を持ってきてもらう様にしている。また御本人と一緒に住んで居室の飾りつけも行っている。		入居者の思いを優先して対応している。入居時より周辺症状進行に伴いけがの防止の為除去することもある。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後等、各居室の換気を行っている。温度調整は職員にて行っている。夜間乾燥防止の為、濡れたタオル等を各居室に干すなど行っている。		排泄介助後の換気はこまめに行い、夏場日当たりが良すぎる為、冷房調整をこまめに実施。冬場は2Fに1Fより暖かい空気来る為こまめに調整している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は回路式で散歩訓練等で使用している。		個々の能力に合わせ車イス、歩行器など使用し、歩行訓練をしている。徘徊ある方も他入居者の視野に入らない為に回路式にしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	統一したスタッフの服装により、分からなくなってしまう際、いつでも聞ける雰囲気とわからなくなった時の対応を配慮し、進行防止に努めている。		個々の能力で日記の記入、メニュー表の記入、日付、時間等の分かるように対応している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	個々の能力に合わせてベランダで自分の洗濯物干し、中庭で日向ぼっこしたりと工夫している。		季節に応じた食事、喫茶を工夫している。横浜アートスクールより、廊下に絵画展示を年一回取り替え、楽しむ事が出来るようにしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは、地域との交流を開所時より充実しており、家族からの満足度も高い。
目の前にある診療所との連携により、入居者、ご家族の安心感もある。
年間を通じて外出レクリエーションが季節毎にあり、入居者も楽しまれている。ご家族参加もあり。

(様式1)

自己評価票(参考例)

けやき 平成19年10月 1日作成

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		商店街の買物、喫茶、地域子供会の交流、小学校との交流授業を開所年より実施。中学校の社会勉強も受け入れている。 地元保育園との交流を計画し調整している。 幅広く社会資源を活用して社会性を維持させる事を目標としている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を元に、法人全体で職員に勉強会を実施し、年度ごとにスキルアップした質の確保をしたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		入居前に地域交流の取り組みを説明し、独自性の活動の意味を理解して頂いている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		隣近所とは自然な形で入り、診療所受診等雑談もたえず行い、地元商店街でもとけこんでいる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		運営推進会議でも自己評価の内容報告し、当事業所が地域との交流が出来ている事を説明している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>地域に高齢者事業所と認知されており、今まで徘徊高齢者の保護、介護保険の相談調整の実績あり。</p> <p>民生委員との協力体制をより強化し、認知症の介護に限らず高齢者支援に法人全体でサポートしている。</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>過去の外部評価の考え方から時代での流れに沿った形で、グループホームに求められる意義を朝礼などに話をして理解を求めている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>委員から御意見のあった際は、前向きに取り入れる方針としている。今まで改善点なし。</p> <p>良くやっているという評価であり、今後もより多くのサービスに取り組みたいと思っている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>前年度までは区高齢者担当と処遇の相談、地域の認知症の介護予防教室のサポートを実施。</p> <p>状況に合わせて担当区と連携は出来るようにはしています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>今まで成年後見人制度の資料を御家族に配布。新規入居者に単身者がいるため、現況で司法書士と調整中。</p> <p>介護保険の更新の代理申請も全入居者に行っているため、担当区にはいつでも家族からの相談があれば対応できるように受入れ体制はあります。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>		<p>年間法人全体で虐待の勉強会を開き、事例に基づき行っている。また管理者がスタッフに個々に指導の徹底を行っている。</p> <p>何が虐待なのか基本的な考え方から職員自身がストレスにならない為の個々のサポートを心がけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前より在宅施設で何が大変なのかきき、具体的に介護内容を伝えたりしている。退所時も十分な話し合いを持ち、話し合った内容を書面にてサインして頂いている。</p>	<p>相談から入所時の家族の不安を傾聴し、具体的な援助をその場で提案、スタッフに周知し対応。退去時は管理者が予め家族の不安となる事をクリアして説明し安心感を提供している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置、契約書に市町村の苦情窓口の連絡先を記載。外部苦情に対しては制限していない。</p>	<p>福祉調整委員会のあり方、契約時実際に受入れた内容を説明、家族より指摘や助言、要望はその都度運営に取り入れている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>病状変化の際には日々管理者より家族連絡している。面会時には近状報告、請求書送付時には通帳コピー、行事参加、行事予定を渡している。</p>	<p>左記記入の事項時に、家族の要望に合わせた個々の対応を可能にしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口設置、契約書に外部苦情窓口の連絡先を記載し、必要時は管理者より業務改善している。</p>	<p>契約書に外部苦情窓口連絡先を記載し、過去に福祉調整委員会を受け入れた事例あり。助言から検討し対応している。また法人職員勉強会でも報告をしている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>業務の関する改善指示は管理者に相談し反映している。</p>	<p>相談を受けた際に管理者は法人内で検討した内容から、受け入れ出来ない内容については、なぜ出来ないのか個々の職員の能力に合わせて説明し理解してもらっている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>気軽に相談できるようにしている。要望に対して柔軟に受け検討してる。</p>	<p>出来るだけ要望は受け入れ、行事に対しては勤務調整している。他管理者の判断できない内容は法人本部に相談している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	適切な処置を第一として考えて対応している。		離職を極力少なくする努力を第一とする。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で育成し、月2回法人職員に対し行っている。段階に応じ、事業所外の研修を受講している。		法人内勉強会を基礎として知識と実務が合って、必要な施設外の研修受講する事が効果的と考えている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内3グループホームの常勤職員同士連絡を取り合い、意見交換している。		同法人内のグループホームのリーダーが連絡を取り合い、必要に応じて管理者と当事業所に業務が処遇変更が必要と考える際は改善し、質の向上に心掛けている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスになる原因を管理者が個々のスタッフにアドバイスし対応している。		認知症のケアはストレスが強い為、スタッフに個々の入居者の対応の上手な工夫をアドバイスしている。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員へのとよう制度を導入。管理者が個々に目標設定する。非常勤、契約同様。		職員個々の能力に応じと常勤とよう制度、また本人の能力に合わせた法人内事業所の異動人事も行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御家族より相談・入所に至るまで現状のニーズを理解し御本人が適応できる環境作りを心掛けている。	相談は管理者が行い、ご本人が今何を援助する事で自立し何を求めているのか判断する事で、具体的に介護計画書に反映している。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御家族より相談・入所に至るまで充分今のニーズを理解し御本人が適応できる環境作りを心掛けている。	家族が不安、困難と思われる事を具体的に進め、先々のご本人のケアの展開を導き行う事と実施する事で信頼関係は確立している。
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	入所にあたっては、その御家族・御本人の要望に合わせた入所日を設定している。	ご本人、ご家族にとって何が必要か相談しながら行なっている。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入所前に必ず、見学に在所して頂き、他入居者も御本人も予め受け入れ、準備し生活しやすい環境作りを考察している。	ケースにより拒否がある可能性のある方は、前にある診療所で治療する為とはじめ説明し、自然になじめる様御家族と相談、了承得て対応している。今まで実際に行ってきた。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	介護での御本人の感情がどのようなものか、または本当は何の訴えなのか考察して行っている。	感情の一場面でご本人にとって、何を表現したいのかスタッフで理解出来ない時、管理者がサポートし今後の処遇に結びつける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族と共に介護にあたり、介護計画書にも御家族の支援の役割を反映している。		面会、家族外出が一番のケアである一方で、単身の入居者の心のケアも職員との関係も築き上げている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報交換を行い、御本人を御家族が良い関係を保てるように支援している。		在宅時に比べグループホーム入所より環境に適應する事で家族面会の頻度が高くなり、駅から徒歩圏という事で来所しやすく出来ている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設から入所してきたご入居者は定期的に訪問か職員との交流を維持し対応している。また老人会関係者も同様に対応している。		入居者がなじめる様に、職員はユニホーム着用し、いつでも一緒にいる人と認知してもらう様に努力している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しない様に空間の配慮はしているが、出来ない場合は職員との人間関係の構築、また少しづつ入居者同士距離を縮めている。		人間関係の構築出来ない入居者には、原因究明し職員との構築からステップアップし、他入居者と関係性が維持出来るよう、意図的アプローチを行っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重度化により特養入所の方に対しても入院時面会に訪室し特養で言えない相談も受け対応している。		特養入所、長期入院の方に対しての家族不安軽減の為、定期的な訪問、連絡を行い不安の軽減に努め感謝されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活でジュース購入、ドライブ、散歩、空腹時アメなど本人本位で実施している。</p>	<p>ご家族の要望の多くは外出支援が多く、買物、ドライブ等対応し介護計画書に反映し、日誌にも記載している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前センター方式のアセスメント用紙を使用し、御家族に記入して頂く、また面接時に他内容を把握している。</p>	<p>アセスメント用紙については御家族に分かる範囲でと説明し全部記入しなくてはならないと説明していない。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者の日常生活、心身状態等よく考察、個人記録、業務日誌に記入し把握できるように努めている。</p>	<p>心身の状態を朝礼の際、管理者が把握して一日の必要な動きを指示している。(診療所受診、精神的ケア、行事参加も含む)</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当介護員が記録シートに記入し、常勤職員、計画作成担当者、管理者にて介護計画書を作成する。</p>	<p>介護計画書には家族要望欄を設け意見要望を反映している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し時期に、モニタリングを行い随時、計画作成担当、管理者が作成、御家族に説明し同意をもらう。</p>	<p>見直し以前の急な追加事項については手書きで行い、モデル的にいくつか行い望ましい処遇を介護計画書に反映させている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に伴い、個人記録に反映し定期的に見直しを実施している。		介護計画書の実施の有無等を中心にして記録に反映し、他特記事項を記入。必要に応じてモニタリングに生かすようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	社会参加を大切に地域性を活かした多機能性を活かしている。		社会資源、法人各事業所の機能を充分活用している。(特養、グループホーム、ケアプラザ、診療所、商店街、電車等)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域交流は積極的に行い、一つの独自性を持って行っている。		小学校との交流授業、小学校運動会見学、子供みこし来所、町内運動会応援、コーラスグループ月1回の訪問。 また運営推進会議に民生委員参加。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前、退所後に特養などサービスの支援の活用。		デイサービス、特養(本入所、短期)との調整、またグループホームから特養(ショートステイ)、本入所の支援。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センター職員(月2回)来所。		具体的に今まで事例がなく、予防給付の申請はしていない為、過去の事例ないも必要に応じて対応していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に当グループホームの主治医を説明し同意を頂き、適切な医療を受けられるように支援している。医療連携体制加算対応している。		協力医療機関の他に受診希望の場合は、調整可能。今まで家族が希望の精神科の主治医という対応経験あり。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が精神科であり、病状の家族への説明、職員に対して適切な処置の指導あり。		精神薬服用について主治医より管理者に服用指示あった場合はは管理者より家族に書面にて周辺症状、状況、薬の服用のリスクの説明を行い同意書にサインして頂く。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者は医療連携体制の中で、看護師と昼夜問わず行っている。		入居者が診断を受けた際、管理者(看護師)が家族に分かりやすく説明し家族の不安の除去に努めている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、週一回の病院の訪室し、管理者がソーシャルワーカーと密の連絡を取り対応している。		協力医療機関以外の病院でも管理者が連絡を取り、長期入院を出来るだけでなく努力をしている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医及び法人本部(特養)家族と管理者が充分検討し、家族が望む対応を行い職員にも伝えている。		病状悪化でターミナル期に退所する場合は、書面にて理由と受け入れ先を記載し対応している。重度化の指針の同意書のサイン。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護計画書に反映し、病状に合わせた細かいケアについては申送り簿にて対応している。必要に応じて点滴の指示の場合は、診療所で毎日点滴した事例あり。		病状に合わせた支援を法人全体で取り組み、急激なレベル低下に備えて特養入所申込を入所持より行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>家族に対して退所後も電話連絡し、不安等については連絡し対応。特養入所については、スタッフ同じユニホームにし混乱しないように対応している。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>周知徹底しているが管理者がスタッフのケア場面でプライバシーの保護等で気になるときは個人指導している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>日用品、食事、外出等、会話行動から観察し、処遇上必要な際実施して選択出来るように行っている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>買物、ドライブ、自販機のジュース購入等、介護計画書に反映している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>外出する機会を多くすることで、身だしなみ、おしゃれなど維持出来る様、ケアに一貫としている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割を提供し準備・片づけを行っている。また職員と食事をしながら会話することで情報の提供もっている。		食材は業者で一任しているが、バランスが取れたメニューになっている。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人購入にて補って定期的なイベントでお酒等提供している。		法人全体の外出レクの際、個人購入・選択など心がけ、入居者の性格によってグループ分けを行い、ニーズに合わせケアしている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人に合わせた排泄を行っている。		排便は本人に合わせた整腸剤使用。排尿は2時間毎に一回誘導することでリズムを取っている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴は行っていないが、夏場シャワー浴は実施している。		熱発、血圧高い時は曜日変更を管理者が指示している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中昼寝の時間を設けたり、夜間パット等で無理に起こす事無く本人に合わせた安眠を考えている。		周辺症状が認められた入居者には、主治医と相談し身体に負担ならない様に漢方処方し、安眠を支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活療法と位置づけして社会参加に努めている。		買物、喫茶、子供との交流授業、診療所の受診すべてが生活(社会参加)一考察としてとらえている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前に家族に紛失してもいい金額をもたせてほしいと依頼、また介護計画書にも反映している。		ご本人の能力に合わせてお金の所持を行っている。ジュース購入、買物の支援は制限していない。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が状況に合わせて時間を作り、本人の希望により外出している。		10月までは毎日買物に行き外出する事環境作りをしていた。現在では先の通り、時間を作り声掛けし外出している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事で一泊旅行、イチゴ狩り、七夕祭り等計画し実施している。		他市の外出レクリエーションを多くし、ご本人の社会適応能力、環境の変化に適応出来るかも考察のポイントとして行っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話(家族・友人)を自由にし、手紙も同様にしている。		電話(家族・友人)5名、手紙やり取り2名実施している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に対応している。		老人会で一緒だった方、民生委員、同じ施設入所の利用者の方、職員等、制限していなし。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画で身体拘束の勉強会を実施している。		身体拘束についての十分な理解を全体、個人の能力に合わせた指導をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関鍵は、玄関前の道路が交通量を多い為、入居者の安全を考え施錠を行っている。入居者の部屋には鍵が無いので鍵をかけないケアを行っている。		玄関の鍵は交通量の多さの為、鍵は必要と判断している。また職員には管理者より自宅の玄関の鍵は皆かける事がほとんどと考察している。一考察出来るといういろいろな角度から考える事も指導している。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	御本人のプライバシーを配慮しながら、昼夜通しての様子を把握し安全に配慮している。		個々の能力に応じて自室の窓より鍵を開け中庭に出で歩行訓練、徘徊の事例ある為、随時職員が人員の把握に努めている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		認知症の進行に伴い、当初より居室にある物品の除去に努め、怪我、異食の防止に努めてきた。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの勉強会、救命講習の実施と事故を起こさない努力、起きたときの対応の準備をしている。		服薬管理は朝・昼・夕と手渡す時に名前を呼んだ事で2名確認で誤薬防止とする。緊急時の対応マニュアルを書面で掲示している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回救命講習を法人にて実施している。また月2回法人主催の勉強会を実施し、介護員のスキルアップを行っている。		けがの場合、管理者に報告受け初期対応の指示、夜間帯での事例としてバイタル測定時心肺停止状態、管理者、主治医に連絡し、蘇生しながら10分で診察対応した。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成している。		地域と協定は結んでいないが、今度町内会とは相談して行きたいと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々に合わせたリスクは、必要に応じて対応している。		リスクが考察される時は、居室内も家族確認し、同意得た物を除去したり、精神薬服用についてもリスク説明し同意書にサインして頂いている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	昼夜問わず体調変化は認められた際は、管理者に報告し指示を仰ぐ。		管理者が状況報告を受けた際、適切な指示、また診療所に職員が入居者と受診し他科受診もありうる場合、また結果は管理者より家族に状況報告し記録をする。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週一回の定期薬セットし、台帳を個人記録にファイル内服後の変化は朝礼等で報告している。		臨投薬は定期薬に追加服用の際は、セット前、服用時、服用後に確認。必要時、薬剤師の指示を受ける。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の排便は、排泄表で管理し申し送り時に報告を行う。予防として散歩や体操で運動をして頂く。また主治医からの指示により内服薬の服用も一部あり。入居者に合った方法で取り組んでいる。		個々に合わせた便秘傾向で、起床時牛乳、ラキソベロン、酸化マグネシウム、坐薬（管理者のみ挿入）で対応している。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、就寝時、食後等声掛けを行い口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間回収し、洗浄薬にて対応している。		口腔内の管理以外に、義歯、虫歯は協力医療機関の歯科受診を入居者の能力に応じて電車などで行事的に行っている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、表にて管理し、入居者に合った食事量、水分摂取量の提供に努めている。		水分量の摂取は、2000cc/日を目安に徹底している。メニューは業者配達であり、バランス的により形で提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルを作成している。また随時に、感染症の予防講習会に参加し、職員に申し送っている。		インフルエンザ、ノロウイルスについての勉強会は施設内外に参加している。肝炎については、入居前の診断書で抗体かを確認。疥癬。MRSAについてはマニュアル作成。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の衛生管理の内容を台所に貼り出している。また年1回の食品衛生講習会を法人で実施している。		年一回の市主催の衛生講習会に参加。まな板、包丁は毎日熱湯消毒している。害虫駆除は月一回業者確認している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	過去の外部評価で指摘事項であり、その後玄関前に花を置くなどしている。また中庭の花壇に咲く花の立ち入れをしている。		玄関は大きく強盗防止の为重点警戒中の張り紙しアピールしている。夜間の玄関前での電灯は今まで暗かったが、今は少し明るくなり地域の方に喜ばれている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて玄関に花、リビングにクリスマス、雛飾りなど、入居者と一緒に飾り付け手入れをしている。		トイレは3分に一回芳香剤が噴霧し消臭するなど気をつけている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになるスペースは居室で対応している。ソファで入居者同志集まって談笑するスペースを作っている。		居室、リビング、ソファと限られたスペースで職員が状況に合わせて対応している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居時に御本人が愛用されていた家具、寝具等 を持ってきてもらう様にしている。また御本人と一 緒になって居室の飾りつけも行っている。		入居者の思いを優先して対応している。入居時よ り周辺症状進行に伴いけがの防止の為除去するこ ともある。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	起床後等、各居室の換気を行っている。温度調整 は職員にて行っている。夜間乾燥防止の為、濡れ たタオル等を各居室に干すなど行っている。		排泄介助後の換気はこまめに行い、夏場日当 たりが良すぎる為、冷房調整をこまめに実施。冬場は 2Fに1Fより暖かい空気がある為こまめに調整し ている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	室内は回路式で散歩訓練等で使用している。		個々の能力に合わせ車イス、歩行器など使用し、 歩行訓練をしている。徘徊ある方も他入居者の視 野に入らない為に回路式にしている。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	統一したスタッフの服装により、分からなくな ってしまった際、いつでも聞ける雰囲気とわから なくなった時の対応を配慮し、進行防止に努めて いる。		個々の能力で日記の記入、メニュー表の記入、日 付、時間等の分かるように対応している。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	個々の能力に合わせてベランダでご自分の洗濯物 干し、中庭で日向ぼっこしたりと工夫している。		季節に応じた食事、喫茶を工夫している。横浜 アートスクールより、廊下に絵画展示を年一回取 り替え、楽しむ事が出来るようにしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは、地域との交流を開所時より充実しており、家族からの満足度も高い。
目の前にある診療所との連携により、入居者、ご家族の安心感もある。
年間を通じて外出レクリエーションが季節毎にあり、入居者も楽しまれている。ご家族参加もあり。